

商いの新しいものさし

（株）商い創造研究所

代表取締役

松本 大地

第21回

高松で実証された2つの地域再生術

今年4月、高松市の市街地再開発事業で丸亀町商店街G街区に「丸亀町グリーン」が開業した。

パブリックスペース「けやき広場」を中心に、地元の有力店と四国初出店というユニテッドアローズ（green la

bel relax in g）、アーバンリサーチドアーズや生活の木など都市型ライフスタイル提案の人気店を加えた約60店の商業施設、175室のホテル、96戸の住宅、駐車場・駐輪場が一体となった商店街再生型複合施設である。けやき広場では、ベンチで語らうカフェやカフェでお茶をする人々の生活風景とい

う、サイドプレイスの場がつくられていた。2006年の第1期で先陣を切った丸亀町商店街A街区と合わせ、長い商店街を2核1モールで形成できたのは、「育ちまち」をコンセプトに商業施設と街づくりが一体となり、見事に人と街と商いがリンクしているからだ。

一方、脚光を浴びる丸亀町商店街を一步出た周辺はどうかと言えば、相変わらずシャッターが降りた旧態依然の商店街が続く。その商店街の新しい現実を垣間見つつ進むと、目を疑うような光景が飛び込んできた。大勢の人と賑やかさが商

店街アーケードの外まで溢れていたのは、丸亀町グリーン開業に続き5月にオープンした「高松いろは市場」である。

高松いろは市場は、高知市にある地域鏡光型施設「ひろめ市場」に携わった仕掛け人と当該地不動産所有者が、04年より開業された常磐町商店街の旧OPA跡のビル1階約2000㎡を、事業費約1億6000万円

の低事業予算で改装したフードテーマパークだ。今にも崩れそうであった旧OPA跡ビルは、若者をターゲットにした食のサブカルチャー発信基地に変貌し、お好み焼きやたこ焼き関連が集まった粉もの横丁、郷をわらで焼いた土佐菓やきを売るまう黒潮広場、昭和30年代風のBARや居酒屋がレトロな雰囲気を出したゴールデン街、韓国屋台やアメリカンなローストチキン専門店が詰まる国際広場などにゾー



いろは市場は地域住民が共感するお祭り広場

ニングされ、そこにアナログのスマートフォンや射的などお祭りの縁日のようなエンターテインメント空間が賑わいと楽しさを作り出していた。

とかくバラバラになりがちで短命に終わるケースも見受けられる同様の施設と違い、全体の店舗仕様や運営管理、販売促進に一体感があり、いかにコンセプトの浸透やフードビジネスの基本を徹底させているかが肌身で感じられた。いろは市場のネーミングは、商いをイロハから若者に学んで欲しいとの意が込められ、館内は若年層の従事者がほとんどなのは、5坪を借りて月家賃5万5000円とリーズナブルに設定され、若者の起業、雇用に寄与しているからである。

高松で新しく誕生したこの2つの施設は、地域再生の大きなものさしを示唆する。丸亀町グリーンは、森ビル都市企画の

コンサルティングにより、商店街を心とぎめく場に変貌させたこと。森ビルはラフォーレを小倉、松山、新潟と展開したものの、すでに地方では新湯を残して撤退、その地方ビジネスで学んだ苦い経験を丸亀町グリーンで活かしたことは、これから同社の大きな糧となり他の地域再生への取り組みへと広がるであろう。いろは市場は、人々は街なかに集まるのが好きであり、人間味あふれる優しさに共感することを望んでいることを再認識させた。

地域で若者雇用機会を拡大し、地域産業や生活文化の発展に寄与する地域循環経済増進戦略こそ、最大のヒト、モノ、カネの地域再生切り札になる。日本中どこでも同じ顔の商業施設ではなく、新しい魅力を付加した地域に愛される商店街再生こそ、望まれている真の声ではないだろうか。

高松で新しく誕生したこの2つの施設は、地域再生の大きなものさしを示唆する。丸亀町グリーンは、森ビル都市企画の

コンサルティングにより、商店街を心とぎめく場に変貌させたこと。森ビルはラフォーレを小倉、松山、新潟と展開したものの、すでに地方では新湯を残して撤退、その地方ビジネスで学んだ苦い経験を丸亀町グリーンで活かしたことは、これから同社の大きな糧となり他の地域再生への取り組みへと広がるであろう。いろは市場は、人々は街なかに集まるのが好きであり、人間味あふれる優しさに共感することを望んでいることを再認識させた。

地域で若者雇用機会を拡大し、地域産業や生活文化の発展に寄与する地域循環経済増進戦略こそ、最大のヒト、モノ、カネの地域再生切り札になる。日本中どこでも同じ顔の商業施設ではなく、新しい魅力を付加した地域に愛される商店街再生こそ、望まれている真の声ではないだろうか。

高松で新しく誕生したこの2つの施設は、地域再生の大きなものさしを示唆する。丸亀町グリーンは、森ビル都市企画の

コンサルティングにより、商店街を心とぎめく場に変貌させたこと。森ビルはラフォーレを小倉、松山、新潟と展開したものの、すでに地方では新湯を残して撤退、その地方ビジネスで学んだ苦い経験を丸亀町グリーンで活かしたことは、これから同社の大きな糧となり他の地域再生への取り組みへと広がるであろう。いろは市場は、人々は街なかに集まるのが好きであり、人間味あふれる優しさに共感することを望んでいることを再認識させた。